

はじめに

『若い歯科医と研修医のための口腔外科はじめましょう』の初版は、2002年3月に佐々木次郎先生の監修で発刊されました。現在、口腔外科を専門として活躍されている多くの先生方が、この本で基本的なことを学ばれたのではないのでしょうか。

初版の「刊行にあたって」のなかに、「医療の進歩はめざましく、歯科医療においてもその医療技術の多様化、手術成績の向上には目を見張るものがあります。それに伴ってカバーすべき領域も広く深くなってきています」とあります。

初版から約20年が経過するなかで、口腔外科の治療技術や手術器具、材料などは、さらに加速度を増して進歩しました。また、口腔は消化器・呼吸器・感覚器・運動器という複雑な機能をもつ臓器で、口腔外科で扱う疾病の病態の複雑化と治療の高度化によって、周術期管理にもより高いレベルの知識が求められるようになりました。医療安全管理、感染予防対策、医療倫理の徹底は、社会的な要求にもなっています。専門医制度改革を機会に、公益社団法人日本口腔外科学会の口腔外科専門医制度のカリキュラムも、これらを網羅すべく整備されつつあります。

このように、医療の進歩と社会のニーズの変化に伴い、口腔外科に専門性をもって活躍しようとする若い先生方が学ばなければならないことは、20年前に比べてとても多くなりました。

本書はこれらに対応し、口腔外科を学んでいこうとする若い先生方を対象に、いまの口腔外科の臨床で、知らなければならない知識や身につけなければならない手技について、各種のガイドラインなどを基本に、第一線で口腔外科の臨床と若手の指導に携わっている先生方と各分野の専門医師の方にご執筆いただきました。必要なときに、本書ですぐにその項目を確認しながら基本的知識と手技を修得し、安全な医療を提供できる多くの口腔外科医が育ってくれることを期待しています。

末筆ながら、本書を企画いただきましたデンタルダイヤモンド社の木下裕介氏に感謝申し上げます。

2019年12月

編集 片倉 朗